

校長室だより

No. 18

平成 27 年 9 月 11 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず
加 藤 嘉 一

祖父母参観デー・学区敬老会で子供たちに願うこと

明日、祖父母参観デー・学区敬老会が行われます。学区敬老会は、社教行事になりますが、地域の方への恩返しも含め、小学生もアトラクションに参加させていただきます。このアトラクションへの参加は、前校長中根俊忠先生の「歌声の響く学校に」という願いから、昨年度全校合唱を披露することになったと聞きました。私も賛成です。今年も全校合唱を披露します。

私の願いは、子供たちに全校合唱でしか味わえない歌声の響きを感じさせたいということとともに、地域の高齢の方々に歌を届ける幸せを感じてほしいということです。授業時間の関係上、練習は大変少ないのですが、子供の一生懸命に歌う姿は心を動かすものと感じています。全校合唱が高齢の方々の心に響き、子供に会った時に「よかったよ」と声をかけていただく交流ができれば、子供たちにとって価値ある経験となり、幸せが実ります。

あさがおのひみつ
おしえるよ
あさがおのひみつ
ね(え)
こうちようせんせい
あさがおのみをとったらね
たねがでてきたよ
ぶひんは四こにわかれてた
たまねぎのかたちのとね
ふうしゃみたいたいのとね
いちこのへたみたいたいのとね
わかれてた
ね(え)
しってた(?)



上は、1年生2学期国語の授業で、心動いたことを詩にした作品です。きっと結衣さんは、朝顔の実をじっくり見て発見した感動を、自分の知る限りの言葉を探して私に知らせようと表現してくれたのだと思います。この詩から子供の心を想像するように、合唱を通して子供らしさ、一生懸命さを感じていただければ幸いです。

スーパーサイエンススクール事業(夏休み編)の成果はいかに ー理科自由研究相談会よりー

授業参観とともに夏休みの自由研究作品展を行います。宿題としての「自由研究」は、いつ頃から始まったのか私もよく分かりません。現在は、全国各地の多くの学校で行われているのではないのでしょうか。

本校でも夏休みに自由研究の宿題を出しました。私としては、宿題ということの一つのよい機会にし、好きなように興味関心をもったことの研究を深め、学ぶ楽しさを味わってほしいというのが心からの願いです。しかし、この夏休みの自由研究で何をやるのか決めるのに苦労した人が多くいたことでしょう。だれもがさまざまな事柄に関心を持って、自発的に研究を進めてくれればこんな素敵なことはありません。授業でも興味を持たせようと私たちはあの手この手を使います。でも、興味を持たせることは至難の業です。それと同じことかもしれないですね。子供の学ぶ意欲を引き出すことは、本当に骨が折れます。



【夏休み理科自由研究相談会】

今年は、スーパーサイエンススクール事業校に選ばれたおかげで、理科実験アシスタント(日下部先生)が配置されたため、日下部先生に理科室の開放(管理)と相談会をお願いしました。この相談会は、渡辺先生が全面的に企画をし、参考図書まで用意してくれました。子供の意欲を喚起するために、保護者とともに、どんな研究が面白そうかを相談することも、子供の主体的な研究のきっかけ作りをする一つの手だと思っています。参加者の御意見を以下に紹介します。

【参加者保護者の声】 ※参加者 児童計 14 人、保護者計 8 人

- ・テーマを自分で見つけることができ助かりました。
- ・自由研究をするのが初めてだったので、親も子供もどんなふうにしたらいいのか分からず、夏休み自由研究相談会に参加させていただきました。子供は〇〇の観察キットを使って行おうと決めていましたが、先生のアドバイスを参考にして実験しながら、いろいろな観察ができました。昨年の自由研究の作品を見せていただき、書き方ややり方の参考にもなりました。相談会では、私や子供には思い浮かばないことなども教えていただいたので、参加してよかったと思っています。
- ・実験方法、まとめ方のアドバイスをわかりやすく説明していただいたので、実験もスムーズに進み、とても助かりました。子供だけでは気付けない方法やまとめ方を親子で一緒に聞いたので、これまでの自由研究よりも、子供も自分で考えて進める部分が多く、まとめのも上手でした。次回もあれば、また参加したいと思いました。

コーヒーブレイク(豆知識)

実は、昭和 22 年の教育課程(授業の規準)を見ますと、この頃教科と並んで「自由研究」という授業があった記録があります。文科省のHPによると、「自由研究」の授業は、「児童の自発的活動を促すために、児童が各自の興味と能力に応じて教科の活動ではじゅうぶんにこなすことのできない自主的な活動を教師の指導のもとに行なうための時間」だったということ。今は、保護者の皆さんが子供たちの相談相手になっていますが、ここでも大人(教師)の指導のもと、自主的な活動を促すことが必要と考えられたように読み取れます。(この後「自由研究」の名称は、昭和 24 年に消えます。当時は教科が主体となった自由研究が中心だったようですが、さまざまな変遷を経てクラブや委員会活動といった自主的活動を中心とするようになり、「特別活動」に変遷していきます)